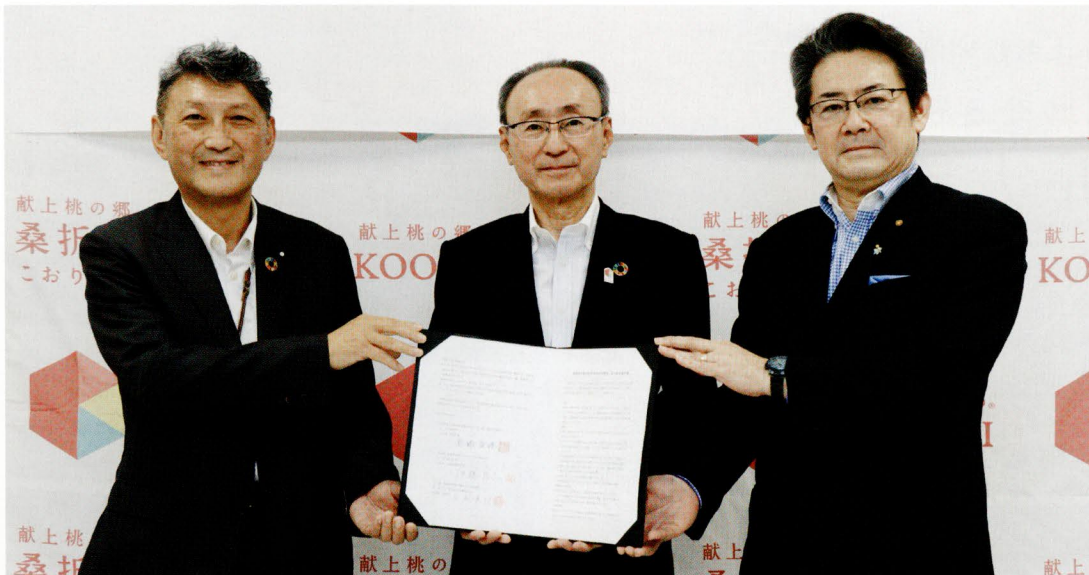


福島蚕糸跡地利活用 2事業者と協定締結



▲協定書を手にする（左から）伊藤代表取締役社長、高橋町長、小松理事長

賑わい創出の場を 町民の皆さんと

（株）いちい 代表取締役社長
のぶひろ
伊藤 信弘さん



この度ご縁があり、桑折町へ出店できる運びとなったことを大変うれしく思い、また感謝しています。町民の皆さんに満足いただける店舗で、住みやすさをお手伝いするとともに、自然体験による新たな交流の場をご用意します。かつて桑折町の産業の中心であった場所に、これからは皆さんが集い、賑わいあふれる場所に育てていただければ幸いです。自然豊かで歴史ある桑折町の風土を尊重しつつ、新しい取り組みとの調和を図っていきます。



皆さんに愛される こども園運営を

（社福）松葉福祉会 理事長
よしゆき
小松 良行さん

この度は、私たちの提案を採択いただき、心から御礼申し上げます。歴史と伝統を尊び、かおり（醸芳）高い文化のまち桑折町は、献上桃の郷としても私たち県北に暮らす人々の誇りであり、連帯中枢都市圏を柱に、将来にわたり発展し続けなければならないものと考えています。次世代を担う子どもたちの教育・保育を推進し、みんなに愛される幼保連携型認定こども園として、多様な子育てニーズへ対応できるよう、環境整備に努めていきたいと思ひます。

福島蚕糸跡地利活用について、町はスーパーマーケット事業を展開する「株式会社いちい」とこども園を運営する「社会福祉法人松葉福祉会」と6月8日、役場で基本協定を締結しました。

約2・2ヘクタールの敷地には、いちいがスーパーやアウトドア施設などを整備。松葉福祉会は、私立の幼保連携型認定こども園を設ける計画となっています。特に、スーパー内には、地元農産物の直売所設置や高齢

者・子育て世代への移動販売も予定しています。さらに、無料で使用できる学習スペースや各種催しができるパブリックスペースを設けるなど、地域社会に貢献した施設を目指します。

締結式で高橋宣博町長は「住み続けたい町、住みたい町となるように、町の発展につなげた」とあいさつ。スーパーとアウトドア施設は、令和5年4月の開業を目指し、こども園については、今後内容の協議を進めていく予定です。



施設イメージ図（現時点での構想案です。詳細については、今後の協議の中で決定していきます。）